文芸欄

俳句

宝愛句らぶ（中央区）
カピバラや柚子風呂入りて目を細め　和子
みかん山崩して積んで幼子は　悦子
今年こそ〝アレ〟に喜ぶ年の暮　千枝子
年の瀬や物見遊山の京歩き　道子
寒風に吹かれ思わず年想う　恵子
翻る鳥の羽きらり冬晴るる　丘
柑皮症なりてまだ食うみかんかな　和志
寒空やビルの谷間に陽が沈む　啓臣

梅の美会（兵庫区）
四世代揃って姦しお正月　藤井歌子
青き空手摺にもたれて日向ぼこ　山口茂子
丹波路や谷間隠れの名残雪　粟野富江
七五三曾孫の晴着スマホから　藤田ユイ子
寝疲れて火燵蹴り出すコロナゆえ　山田朝子

高原ささゆり会（北区）
いざ火事ぞとびら開ければもみじ燃ゆ　尾崎順子
島の秋潮の匂ひ海光る　山下久一
亡き人の自慢の根深風に揺れ　南久美子
百八の煩悩消えていわし雲　佐藤かなめ
口中の山菜の香や春浅し　てる子
春来たる回覧板に犬が吠え　松村二三枝
夜半の雨沈丁花の香地に沁みて　中井裕子
三月や思ひ届かぬ猫の声　若林節子

ひまわり句会（北区）
粕汁に酔ひし顔面赤くなり　辻寿賀子
救急車に家族に感謝年の暮　石井敏子

ひよどり台句会（北区）
冬支度逸る心に追いつかず　塩見光子
若き日の想い出多き冬の山　田中弘子

巫女の舞瞳こらして七五三　筒井豊子
但馬路は朝霧深く山覆ふ　中井光子
落ちそうにして一葉にもある力　矢谷登美子

北斗句会（北区）
電飾の出船入船降誕祭　黒田久江
連休の坊ちゃん電車獺祭忌　増田嗣夫
旨味増す昨日のおでん妻の留守　秋山弘之
予定日を早め出産クリスマス　松本洋子
晩学の遅々と足踏み石蕗の花　久松礼子
献立のメモある厨古暦　岸下庄二
宿坊の苔むす句碑や石蕗の花　脇坂有多子
地図広げ枕の上の秋の旅　小段安徳
花びらが寄り添い合って石蕗の花　西島静江

見山台新樹会（北区）
卒寿すぎ生きてましたと年賀状　丸尾嘉子
蚊柱が冬の夕日に舞い上り　藤田和夫
一枚のこよみ眺めし年の暮　松隈弘子
こんもりと落葉布団の植木鉢　佐溝満喜子
元日や箸袋には鶴と亀　高石勝行
三ケ日彼の地震の日のよみがえり　貞永弘子
八十路半ば感動のなき新年　石本宏一
師走に来た入籍の報孫の声　吉田勲

きらく句会（西区）
シネマ出て暖簾くぐりておでん酒　喜田弘征
初詣子どもみくじは大吉に　阪本道子
孫の名をつぶやき選ぶポチ袋　田野育利
祈祷終え焚火を囲む輪に馴染む　森本珠実
行く年のゲーム三昧ロゼの味　大橋治子
初日の出神の社はスマホスマホ　尾上正紀

◆個人
木の芽和え蒔絵漆器に盛る想い　（東）北田建樹
紅葉映え姫路城や水鏡　（灘）福井悦子
二つ三つ心に春の夢を抱く　（灘）山上幸子
水再三喉越さぬ薬老ひを知り　（北）植田きみ子
龍のひげ根につらなるや瑠璃の玉　（北）山田キミ子

草紅葉夕日に映えて子等帰る　（長）水口映子
特みたる一品足らぬ日の大根　（須）高橋純子
爽やかやブラスバンドのトランペット　（須）福本和恵
冬夕焼けビュースポットへ歩幅伸ぶ　（垂）大上昭敏
雨にぬれ枯葉散らずに道染まる　（垂）木村敏博
ボール追う老人集ふ日向ぼこ　（垂）山田としゑ
アレアレと今年もすぎて春を待つ　（西）芝田律子
小春日や下駄履き夫婦散歩道　（西）寺岡洋子

川柳

桂木ひふみ会（北区）
一千億画面はみ出すあの笑顔　荒木宗Q
逝く時は満面笑みで門くぐる　京念久美子
豊麗線下がって老けて嫌気さす　笹岡淑子
「久しぶり」顔は分るが出ぬ名前　杉尾悦子
五年前の免許証見てはこれ誰か　大和ケント

筑栄会（北区）
遅れ来る友へ河豚刺しちょい残す　あきらかほう
歳を経て色の違いは口紅に　よし三茶
紅白のまんじゅう食べてごきげんね　まさこ
紅白は幕・饅頭　歌合戦
また仕舞うきっと着ることない服を

◆個人
疲れたねうたたねばかりのバス旅行　（東）早川キミエ
冷蔵庫なぜに前立つ二度三度　（東）増田芳之
いざなわれここに生きおる人生ぞ　（北）かんいち
井戸塀政治家今はもういないね　（北）北野利一
地いき猫ダミ声だけの大げんか　（北）宮内美栄子
年金日指折り数え孫が待つ　（垂）小髙肇
待ち合いで天使の笑顔さがすどこどこ　（西）藤長文子

へなぶり

ご用心デーサービスの借り貸しは
　思い込んだら老化の病　（北）清水久子

短歌

花山短歌会（北区）
竹林の竹に守られ椿立つ清らな青葉小さきつぼみの
亡き友の写真出でこし懐かしきビールを前にピースしてをり
冬近し木瓜が一輪咲いている明るいあしたを占うがごと
毎日の朝の散歩に最近はどこを回るかと楽しみふえる
外は雨シート倒して今宵の空木星光る明石天文台プラネタリウム
花活けてにぎりし挟み置きて見る黄菊の映ゆる紫のつぼ
　船崎めり子
　山田加壽代
　富田次夫
　礒元カヨ子
　清水惠子
　古林保子

◆個人
頬を裂る凍てつく月よ嗚呼せめて被災地だけはやさしく照らせ　（灘）上田節子
卒寿でもきんとんごまめ出来ました手間かけた分よろこばれ　（兵）大賀清子
穏やかな調べ奏でるコーラスは齢かさねし我らが心　（北）箱守喜久子
花のなき植鉢並ぶ冬の庭猫丸くなり鉢の中ねむる　（北）眞木香代子
心凪ぐやさしき調べ駅ピアノ聴き惚れ拍手旅先の駅　（須）江口啓子
鄙里の秋の山道ひっそりと白き野菊の咲く景浮かぶ　（垂）堀江千生子
縁側のレース越しなる日だまりにぬくぬくといまひとりの気楽さ　（西）増田當代
老い二人暮らしし日々が贅沢とひとりになりてはじめて気づく　（西）松浦妙子

とっておきの作品

「春」
【北区】中里楽山会　安井明美

「とっておきの作品」募集中

会員の皆様から絵はがき＆色紙絵を募集しています。必要事項を記入したものを同封の上、作品をお寄せ下さい。

《必要事項》
①氏名（ふりがな）②クラブ名 ③題名
④郵便番号 ⑤住所 ⑥電話番号

※葉書サイズ（100mm×148mm以内）・色紙サイズ（242mm×272mm以内）でお願いします。それ以外は受付できません。
※作品は随時ご返却いたしますが、長期間お預かりする場合がありますのでご了承ください。
※作品は丁重に取り扱いますが、損傷については理由のいかんに関わらず、一切の責任は負いません。

《宛先》
〒650-0016 神戸市中央区橘通3-4-1
KOBEシニアクラブ
「とっておきの作品」係

あとがき

見え隠れする春の兆しに心が躍る今日この頃、皆様お変わりありませんか。新年度の始まりは、新たな出会いと会員増強の機会と捉え、皆様一人ひとりがさらに積極的に老人クラブの魅力を地域に発信してほしいと思います。そのためにも、まずは自ら活動に参加し楽しむことが大切です。みんなで地域に老人クラブの輪を広げましょう。